



お世話人の「苦勞の甲斐あつて、満堂のご満座（最後のお座）心に染みるお話でした。ご満座以外がガラガラなのが悩みの種



このお金で何杯も炊きます。倉庫と水道ができて、道具の出し入れや洗物物が楽になりました。後の雨で、この奥の未整備地が崩れました。



食事の言葉が新しくなり、お斎の包装紙も一新。お寺で食べると出される味噌汁がこれまで絶品なんです。

去る12月25日、恒例の安芸南組（60ヶ寺）報恩講ほとけの子の集いが蔵本通支坊で行われ、約百名のほとけの子が集まりました。

今年は、山口県岩国市から周防猿回し一座の「こう平」お兄さんとお猿の「夏水」くん（5歳）が来てくれました。

した。

私は、このご縁に遇うまでは、サーカスで虎をあやつるのも、この猿回しも、特に違いを考えたことはありませんでした。日本古来の猿回しを見て、日本古来の猿回しに素晴らしを知りました。現在の猿回しは、猿を仕込むのに棒でたたいたり、電気ムチでビリッとあつたりして仕込むのだそうで、そのため身体に傷がでたり、ストレスで毛が抜けたりしているの、服を着ている猿は大概そうやって仕込んでいくということでした。

日本古来の猿回しは、棒でたたかずに仕込むのだそう、だつこしながら育てる。すると人間と猿の気持ちが相互に通じ合う。上下関係ではなく、対等な家族として、家族が「喜ぶから」残

りの家族が芸をやる、というふうな仕組みなんだそう。これを「本仕込み」というそうです（お酒みたいですね）。だから、猿をたたかないので、小さな椅子に座らせるのも二年もかかるそうです（つまり仕込む方は、手



を上げずに二年もの間じつと我慢するということですね。

驚。今この猿回しができるのは日本で三人しかいないそうです。実は、戦時中に全面禁止になって、一度全滅絶えてしまっていたそうです。が、約三十年前、生き残ったおじいさんから技を学び、かろつて伝わっているとい

うことでした。ちなみに、このように育った傷のない猿を「花ザル」（花最高・美のよう）に美しい猿。といって、昔は見る方もよく知っていて、芸の仕方、猿の毛並みを見て「よつ、花ザル」と、かけ声が飛んだそうです。

最後に、今日は機嫌がよいということで、奥義の二つ「風車」を見せてくれました。猿は両手を握られると、自由が奪われるので嫌うそうですが、「こう平」お兄さんと両手をつないでブラブラ。写真のように全く脱力して



奥義「風車」

いて、まるで子供が親に「高い高い」をしてもうっているようです。ぐるぐる猿を回すので風車。人間と猿の絶大な信頼関係が伝わってきます。上手くできた後は、愛情込めてだつて。



上手にできたらぎゅつ。

私は、子育て中ですが、なんだか自分が恥ずかしく情けなくなつて涙が出てきました。深く深く反省したことでした。何と云って良いか分からないほど暖かく深い心に触れさせていただき